



生活
文化

58
まいん

おおやまづみじんじゃ
大山積神社



現在の大山積神社

大^や鉋^まの唄^{うた}が
今も生きづく

おおやまづみじんじゃ
大山積神社

は、元禄4年(1691)別子銅山開抗直後、鎮護の神として大三島(愛媛県越智郡大三島町)の大山祇神社より勧請しました。

当初は、旧別子地区の縁起^{えんぎ}の端^{はな}に建設されていましたが、明治26年(1893)には同地区の目出度町^{めったまち}に遷座^{せんざ}され、その後、大正4年(1915)には東平、昭和3年(1928)に現在の生子山麓^{しょうじさんろく}へと奉遷^{ほうせん}されました。



神殿の横に祀られた大鉋



大鉋祭 昭和30代撮影 日和佐初太郎氏撮影

別子銅山の鎮護の神として、また、別子銅山労働者の氏神として崇敬され、鉋夫が入出抗する際には、必ず坑口に奉られている御祭神を拝礼していました。

毎年元旦の新年祭式には、別子銅山の鉋石を奉献する大鉋祭も行われました。また、5月の春季例大祭には神事のほか、境内にあった相撲場において、住友各社社員による奉納相撲大会も開催されました。

現在も社殿での神事は行われており、相撲場の跡には別子銅山記念館が建設されています。



現代も受け継がれる大鉋祭

いつ?

閉山後、途絶えていた大鉋祭ですが、住友系企業 OB らでつくる「別子銅山親友会」によってよみがえった大鉋祭、毎年いつ行われているのでしょうか?

答えは、裏にあります。

